

祖父母がかかわる子育て

開催日 平成 16 年 10 月 30 日

講師 本学教授 南 佑 子

I はじめに

孫は、祖父母にとって目に入れても痛くない存在だと言われている。日頃の経験を通して“祖父母がかかわる子育て”について思っていることを話してみたい。

II 子ども達のおかれている状況

子ども達を取り巻く環境が、大きく変化している。ほとんどの家庭が核家族であり、家庭では、少ない子どもを贅沢に、清潔に育てているが、アトピーの子どもも多い。子どもの数が極端に減少し、子ども達は友達とかかわって戸外で思う存分遊んだ経験が乏しい。一方現代の子どもは、8～10個のポケットを持っているといわれている。豊かな両親や祖父母からお金や物が降り注ぐお子様天国である。

また、幼少期から電気器具に囲まれて過ごしているので、VTR、携帯電話等の機械の操作に強く、また、テンポの速い曲も楽しむことが出来る。

III 父母のおかれている状況

親としての自立度は、今一つであり、自分の親に依存しようとする傾向が強い。早く、大きく、賢くが子育ての目標になっていることが多く、どんな人間に育てたいかというビジョンに乏しい。子どもを友達と遊ばせようとしても危険が多く、また、少子化とお稽古事でその機会も少ない。テレビ、ラジオ、新聞、育児書等で子育てについての情報は氾濫しているが、情報の整理がつきにくく、育児ノイローゼになってしまう保護者もある。子育てには、時には愛の鞭も必要だと思われるが、本気で叱らず、腫れ物に触るような対応をしているように見えるところがある。

IV 孫と祖父母

孫が可愛いのは、自分達のDNAを継承している存在であり、自分の子育てを再体験することが出来るからではないだろうかと思う。孫育てについては責任をもたなくても良いのと嫌われるのが嫌さに娘や嫁に子育てについて何も経験を話さない人がほとんどである。祖父母と同居している子どもは、性格がまろやかで欲がなく、気持ちが優しい。礼儀正しい子どもが多いが、年寄り育ちは三文安いと言われるところがある。祖父母は長い人生経験から、子どもが転ばぬ先に杖を出してしまい、過保護になってしまう傾向がある。穏やか過ぎるかかわりによって厳しさが身につかないところも見受けられる。

V 祖父母の役割

子育てのやり方は変わってはいるが、大切なことは変わっていない。過去を総括して全体像が見渡せる祖父母は、子どもの両親に対して、嫌われることを厭わずに子育てについてアドバイスをしてほしい。お金や物をプレゼントする代わりに、昔話を聞かせたり、昔の遊びを教えたりしてほしい。また、社会に出れば必ず必要となる基本的な生活習慣（礼儀作法等）についてきちんと身に付くよう指導の手助けをしてほしい。子どもを育てるには“豊か自然とほどよい貧乏”が必要だと聞いたことがある。祖父母の持っている豊かな時間を、孫と自然を結びつけるためにも使って欲しい。

VI おわりに

祖父母が老年期を豊かに、有意義に生きていくためには孫は大切な存在であり、適切にかかわり合うことでお互いがなくてはならない存在になり得るのだと思う。